

「研究データ利活用協議会」(RDUF)

平成 28 年度の活動総括

平成 29 年 3 月末日
研究データ利活用協議会

1. 「研究データ利活用協議会」の設立

ジャパンリンクセンターでは、「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」で醸成されたコミュニティを活用し、オープンサイエンスの実現に向けて、さらなる検討を行っていくことを目的として、「研究データ利活用協議会」の設立を、平成 28 年度ジャパンリンクセンター運営委員会（第 1 回）（平成 28 年 6 月 2 日 開催）にて決定し、平成 28 年 6 月 3 日に設立した。

2. 活動計画の策定

当面の活動として、研究データ利活用、研究データにおける ID 登録と活用をスコープとして、年 3～4 回程度の研究会、年 1 回程度の報告会、メーリングリストによる情報交換を行っていくこととした（表 1）。

表 1. 「研究データ利活用協議会」の当面の活動計画

名称：	研究データ利活用協議会 Research Data Utilization Forum (RDUF)
会費：	無料（活動に伴う交通費等は、自己負担。）
開催内容：	<ul style="list-style-type: none">研究会（ゼミ形式の勉強会。話題提供者による報告とディスカッション。）（年 3 回程度）報告会（一般に対する上記研究会の成果発表）（年 1 回程度）メーリングリストを活用した情報交換
スコープ：	研究データ利活用、研究データへの識別子の登録と活用
入会形態：	「機関参加」もしくは「個人参加」
入会の要件：	<ul style="list-style-type: none">■「機関参加」の場合<ul style="list-style-type: none">持ち回りで「研究会」や「報告会」の企画、運営をできる。「研究データ利活用協議会」の会員である旨を公表することに同意する。■「個人参加」の場合<ul style="list-style-type: none">研究データの利活用に興味があること。「研究データ利活用協議会」会員リストに、氏名、所属、任意で研究者（ID ORCID ID、researchmap ID など）を公表することに同意する。

3. 立ち上げ業務

(1) 「研究データ利活用協議会」webサイトの開設

JaLC web サイト内に「研究データ利活用協議会」のサイトを設置した¹⁾。また、平成 29 年度からの供用を目指して「研究データ利活用協議会」専用の web サイトを作成した。

(2) 会員募集の開始

平成 29 年 6 月に会員の募集を開始した。平成 29 年 3 月末日時点の参加者は次のとおりである。

- ・機関参加：6 機関
- ・個人参加：27 名

(3) メーリングリストによる情報共有

2 種類のメーリングリストを開設した。表 2 に開設したメーリングリストとその活用実績を示す。

表 2. 「研究データ利活用協議会」メーリングリスト

種類	アドレス	活用実績
情報共有	rduf-share@mr.jst.go.jp	23 回
ディスカッション	rduf-discuss@mr.jst.go.jp	0 回

¹⁾ サイトの URL は次のとおりである。(https://japanlinkcenter.org/top/index.html#top_kyogikai)

4. 研究会、報告会などの開催

研究会、報告会等の開催実績を表3に示す。

表3. 研究会、報告会の開催実績

項番	活動	開催日時	担当
1	公開キックオフミーティング	7月25日(月) 14:00-17:00	JST
2	研究会(第1回) (RDA Plenary 8 Meeting 等参加報告)	10月3日(月) 14:00-17:30	NDL
3	研究会(第2回) (第2回 SPARC Japan セミナー 2016 との共催)	10月26日(水) 13:00-17:00	NII
4	公開シンポジウム(サイエンスアゴラ内) 「研究データの利活用の未来-オープン サイエンスの実現手段-」	11月4日(金) 13:30-15:00	JST
5	(「第1回 CODH セミナー Big Data and Digital Humanities」後援)	1月23日(月)	NII
6	研究会(第3回) 「科学データ研究会・WDS 国内シンポジ ウム(第6回)」との共催	3月9日(木)10日(金)	NICT

5. 外部発表など

「研究データ利活用協議会」の活動について、次の外部発表を行った。

- ・ 中島 律子「研究データ利活用協議会の設立」カレントアウェアネス-E(2016) No.309
2016.08.19 E1831
- ・ 余頃 祐介「「研究データ利活用協議会」公開キックオフミーティング」情報管理
(2016)59巻7号490頁
- ・ 武田 英明「研究データ利活用に関する国内活動及び国際動向について」、南山 泰之
「報告会「研究データ共有によるイノベーションの創出」」月刊 DRF 第82号 P2,P4

6. 自己評価

平成 28 年度は「研究データ利活用協議会」(RDUF) 設立の初年度であり、事務局は制度設計や基盤整備などの立ち上げ業務を着実に実施した。また、参加機関の積極的な活動により、RDUF 固有のイベントを 3 回開催し、研究データの利活用に係る情報の共有と議論の場を持った。さらに、他のイベントとの共催という形式で 2 回のイベントを開催し、他のコミュニティとの連携にも寄与した。その他、メーリングリストの活用による情報共有も積極的に行われた。これらの実績は、当面の活動計画の達成に向けて、初年度に実施すべきことを着実に実施したといえる。

平成 29 年度は、活動のさらなる活性化とプレゼンス向上を図る。

－ 以 上 －